

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1994. **6**

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

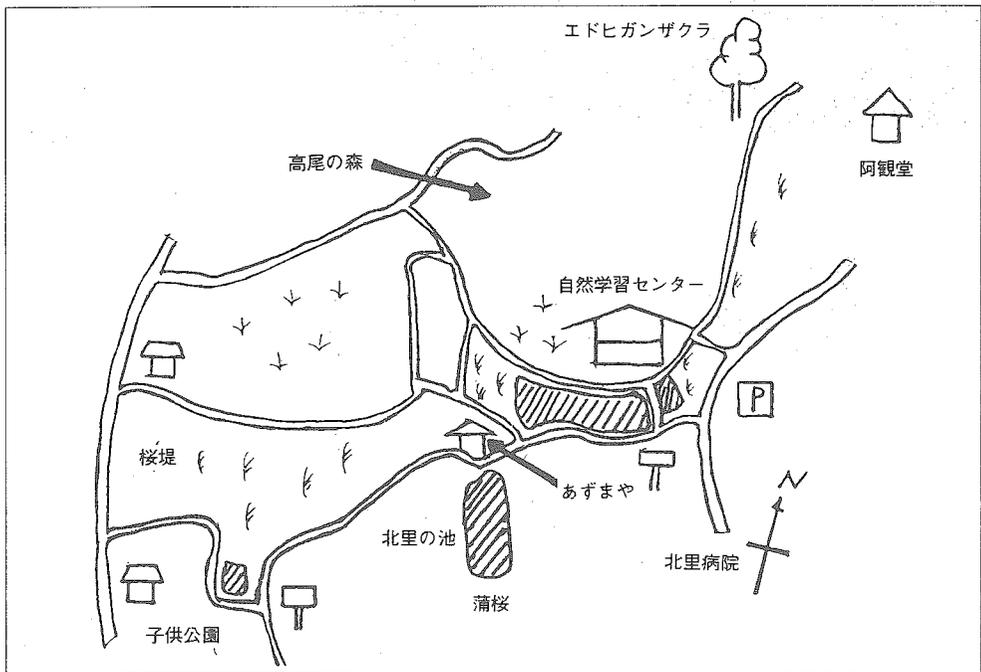
WILD BIRD



NO. 122

日本野鳥の会埼玉県支部

石戸宿探鳥案内Ⅱ



平成4年4月号で『石戸宿』の当時の現状を報告しました。本稿はその続編です。今回は少々趣きを変え、新たな視点から紹介をさせていただきます。

1) 病室の窓から

今年の2月、北里病院に10日ほど入院しました。比較的軽症な私は同居人のなかでも一番元気で、いつも双眼鏡を首にかけている奇妙な姿は見立つようです。「何処がわるいんですか？」そんな質問を受けたりしましたが、点滴を受ける段になって、やっと患者らしくなりました。

4階病棟の東西に延びる廊下のつきあたりはガラス張りになっていて、そこからは探鳥会でよく歩いた小池の辺りや駐車場奥のノスリが止まっていた場所などがよく見渡せました。

朝6時の検温が終わり、デイルームに集まってきた患者さんのひとりがカワウの編隊の通過時刻を報告。「今日は6時5分！」これも私の教育的指導の成果???

カワウの毎日出勤する姿は今日もみんなの心の慰めとなっていることでしょう。

2) 時の流れに

病院のある台地の上の八重塚遺跡から出土した黒耀石製ナイフ形石器と打製石斧は旧石器時代の文化がここに存在したことを物語っています。ほかに阿観堂付近の城中遺跡、石戸城跡、蒲桜付近の諏訪山南遺跡なども発掘されています。我々は縄文・弥生・古墳時代の遺物、遺跡、古墳群の上でバードウォッチングをしていることになります。

高尾・荒井・石戸宿地区は大宮台地で標高の最も高い地点に位置しています。我々はまさに大宮台地の屋根を歩いている！！

地学や考古学について私は門外漢ですが狩猟、漁労、採取によって生活を営んでいた我々の遠い祖先のことに思いを馳せるとき、食物である動物や植物の生命を育む豊かな自然がここに横たわっていたと想像します。そこには、バランスのとれた食物連鎖と生態系があり、そして清らかな水の循環があったに

違いありません。

我々の探鳥ルートにあたる北里構内や公園区域周辺の台地、湧水地、谷と呼ばれる低地で実に一万年も前から人と自然との関わりが持たれてきたことに静かな感動をおぼえるのは私ひとりではないでしょう。

一夜堤の近くに“双子ハンノキ”と呼ばれる樹があります。ミドリシジミの生息で知られていますが、植物群落の遷移を示す指標としても価値あるものです。

水田跡の植生は通常、1年生草本期、多年生草本期を経て低木期へと移行し、やがて林を形成します。我々が目にする湿地に侵入したハンノキとヤナギの光景は、この植生遷移の好例といえます。

石戸宿出現鳥リスト

◎	A	カイツブリ	△	S	イワツバメ
◎	A	カワウ	△	W	キセキレイ
△	S	ヨシゴイ	◎	A	セグロセキレイ
△	S	ゴイサギ	◎	A	ハクセキレイ
◎	A	コサギ	◎	A	ヒヨドリ
△	W	アオサギ	◎	A	モズ
◎	W	マガモ	△	W	ルリビタキ
◎	A	カルガモ	◎	W	ジョウビタキ
◎	W	コガモ	△	W	アカハラ
◎	W	オナガガモ	△	W	シロハラ
△	W	トビ	◎	W	ツグミ
○	W	オオタカ	◎	W	ウグイス
△	S	ツミ	◎	S	オオヨシキリ
△	W	ハイタカ	△	S	メボソムシクイ
○	W	ノスリ	○	S	セッカ
○	S	サシバ	○	F	エゾビタキ
○	W	ハヤブサ	△	F	コサメビタキ
△	A	チョウゲンボウ	△	W	ヤマガラ
◎	A	コジュケイ	◎	A	シジュウカラ
◎	W	キジ	◎	A	メジロ
◎	W	クイナ	◎	A	ホオジロ
△	S	ヒクイナ	◎	W	カシラダカ
◎	A	バン	△	W	ミヤマホオジロ
△	S	コチドリ	◎	W	アオジ
△	W	タシギ	△	W	オオジュリン
△	W	ユリカモメ	◎	A	カワラヒワ
◎	A	キジバト	△	W	マヒワ
△	S	カッコウ	△	W	ベニマシコ
△	S	ホトトギス	△	W	イカル
◎	A	カワセミ	◎	W	シメ
○	W	アオゲラ	◎	A	スズメ
○	W	アカゲラ	◎	A	ムクドリ
◎	A	コゲラ	◎	W	カケス
◎	A	ヒバリ	◎	A	オナガ
△	F	ショウドウツバメ	◎	A	ハシボソガラス
◎	S	ツバメ	◎	A	ハシブトガラス

3) 現在の石戸宿

前回報告後の環境変化のかなでは

①公園内にいくつかの池が造られたこと

②北里構内の池が定着してきたこと

以上2点が特筆されるべきものでしょう。

公園内の池には250羽を超えるカモがやってくるようになりました。トモエガモの姿も混じっています。夏にはバンの繁殖が観察されました。学習センターの2階からはあずまや周辺の湿地と池の大半が一望でき、野鳥観察に便利です。展示コーナーもあります。ぜひ立ち寄ってみてください。

あずまやから高尾の森にかけての一带では、ベニマシコ、マヒワ、ミヤマホオジロなどを探してみてください。夏にはヨシゴイもいます。葦原のオオヨシキリの巣は、カッコウの絶好の托卵場所となっているようです。

北里の池にはカワセミの親子が姿を見せるほか、カイツブリやカモが見られますし、秋にはエゾビタキやコサメビタキが立ち寄ることもあります。谷地に水を入れたことで立木が枯れ、そこにキツツキがよく来るようになりました。時にはオオアカゲラやアリスイも出現します。しかし、問題がないわけではありません。北里病院の雑排水が流れ込んでいると思われるからです。しっかりと見守っていく必要があります。近くの森では、冬にはアカハラ、シロハラ、トラツグミ、ヤマガラ、アトリなど、春先にはウソ、レンジャクを見ることもあります。

エドヒガンザクラ前の湿地に敷設された木道はカシラダカ、アオジ、クロジ、シメ、ジョウビタキ、ツグミ、カケス、ヤマシギなど冬鳥の観察に適しています。じっくりあたりを見まわしてみてください。オオコノハズクが巣箱から顔を出していませんか？

秋に一夜堤近くの湿地で見られる、その名のおりの形と色をしたタコノアシは、絶滅に瀕している貴重種です。晩夏の子供公園前の遊歩道はあたり一面咲き誇るツリフネソウ群落です。1984年の記録では、自然観察公園内で93科325種の植物が確認されています。これらの豊富な植物を基盤とした昆虫小動物

などが、多くの野鳥の生活を支えているので
す。

前ページの表は1990年以降の探鳥会での出
現鳥リストです。使用した記号はそれぞれ下
記の事柄を意味するものとします。

◎○△：出現の頻度 大→小

A：周年 W：冬期 S：夏期 F：秋期
彼等は1平方キロ程のこの小さな区域に、
山から、はるか海の彼方から、毎年同時期に
やってきます。この生活行動は私達がこの世

に生を受けるずーっと前からつづいていま
す。この遠方からの訪問客に何をしてあげら
れるか、時にはじっくり考えてみたいもので
す。

4) 交通その他

高崎線北本駅西口からタクシーで約10
分。

定例探鳥会は偶数月の第一日曜日です。

(岡安征也)

地 鳴 き コ ー ナ ー

やっぱり鳥が好き!

中村 治(上福岡市)

探鳥会では見向きもされないズメ。そんな
彼らだってちょっと目を向けると、まだまだ
不思議がいっぱいである。

ある日のT町(現在のT市)での出来事
である。池のほとりのベンチに座っていたと
ころ、近くの木に1羽のズメが止まった。
何気なく見ていると、そのズメは何を
考えたのか、そばにいたコゲラを真似する
かのように、幹を垂直に昇り始めたのである。
けれども所詮ズメはズメ。最初の一步で
見事にずり落ち、慌てて飛び去ってしまっ

た。そして私もこの時は、変なズメがある
なあと思っただけで、大して気にもとめな
かった。

それからしばらくたった日のこと。都内の
M神宮を散歩していたところ同じ様な光景に
出くわした。今度は数羽の雀が木の根元に集
まっていたが、そのうちの1羽が幹に飛びつ
き、キツツキのごとく木を登ろうとした。し
かし結果は予想通り、まるで前回のVTRを
見るかの様な悲劇(喜劇?)で終わった。

果たしてあのズメ達は、どういうつもり
であのようなことをしていたのだろうか。

私のすすめる野鳥図鑑

楠見 邦博(浦和市)

『野鳥』5月号の海老原氏の文を読みました。
バードウォッチャーであれば、ひとりひ
とりがそれぞれの意見を持っていると思いま
すが、私がすすめる野鳥図鑑について、少し
書いて見ました。

『であいのずかん(2)にわにくるとり』
(まつばらいわき/小峰書店/800円)。初
歩の鳥14種から、鳥のおもしろさ、生活を知
ることができます。幼児・低学年むきです
が、大人にも通じるものがあります。

『日本の野鳥 100①水辺の鳥』『同②野山
の鳥』(叶内拓哉/新潮文庫/各600円)。
叶内さんの写真がすばらしい。いわゆる鳥
そのものではなく、“風景の中の鳥”に詩情を
感じ、自然と鳥をおぼえ、愛着を感じるよう
になります。文書も、イラストを入れて、分
かりやすくなっています。

そのほか『野鳥の図鑑』(藪内正幸/福音
館書店/3000円)は、机上用、探鳥会の鳥合
せ用として最適です。

皆さんはいかがですか。

鳥キチ賛歌

渡邊 光行(浦和市)

野鳥の会へ入会して、かれこれ3年半にな
る。最初は会社の仕事がコンピューターのオ

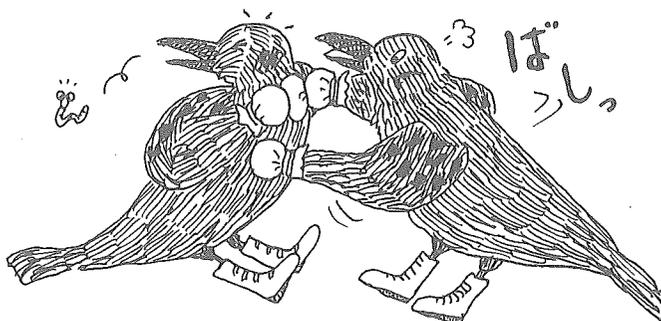
ペレーターになり、時間に余裕が出来ていた
時だった。その頃はヒヨドリとムクドリとツ
グミの区別が出来て大喜びであった。今はも
との事務職に戻ってしまって、ガッカリして

いるが、野原を駆けずり回りすぎたせいではなかったかと思っている。この会へ入会したのは、野鳥を楽しく知りたかったからなのだが、1年位はあまり打ち解けなかった。話もしてくれるし、スコープも見せてくれる。袋づめを手伝えやお酒も飲ませてくれるのに、なぜだったのか。「・・・で・・・が・・・羽・・・時頃」とか「・・・が199種目だったので・・・」などと声を潜めて会話をしているのが、当時は普通ではないような気がしていたのだ。ただし、この頃は不思議に少しも気にならなくなってきてしまった。

野鳥の声の特集が5月号に載っていたが、最初は全くわからなかった。このごろスズメはやはり「チュン・チュン」だな、くらいはわかってきた。声のする方から野鳥が現れたり、さえずりなどで自然に判別が付くように成るようである。生態も含め総てに注意をしていたほうが野鳥を全体的に知ることが出来るようである。

白馬の自然を考えようカイ
渡辺 浩平 (浦和市)

実は私、この8月に長野県白馬村に移住することになりました。今、山小屋を建てているところなのです。冬のスキーシーズンにちよっとだけ稼いで、あとは気の合う仲間たちと、自然のただ中にどっぷり漬かっていたい。もうほとんど老後ですし、何とかこの先、少しでも心豊かな生活ができればと、願っているのです。



カラスの決闘を間近で見ました
羽の音が、バシバシして、すごい迫力
でした。

先日家の近くの大きな屋敷林で、「ケウ・ケウ」と聞き慣れない声で鳴く鳥が現れた。林の中なのでどうにもわからない。さては大型のキツツキでも住み着いたかと、図鑑をめくるがわからない。そうこう悩んでいる数日後に、同じ場所を通ると、「ゲーケケキョ」と鳴いている。哑然として林の中を睨み付ける。どうもカケスがカラスとウグイスを真似ていたようである。

昆虫好きの人達を「虫屋」と言うそうであるが私はあまり好まない。ただし、めざす野鳥の前で、我を忘れぼうぜんと微熱を出している野鳥好きの人達を「鳥キチ」といううのは当たっているような気がする。3年半目にして海岸の探鳥会へ参加した時は19種も初めて見る鳥に出会った。その日は次から次へと、一日中微熱が続いて止まらなかったものである。これからもこの会で新しい野鳥と楽しい「鳥キチ」達に出会いたいものである。

ところが、例えば私の山小屋の隣の湿地、アカショウビンも見たと言えば、どんな貴重な湿地であるかは、すぐお分かりと思います。そこにも荒れた空き地が食い込むなど、ほうぼうで自然の痛みが目立ちます。

何とかせねばと悩んでいるばかりでは始まらないので、ここの自然の実態に触れて考えて頂けたらと、山小屋が営業運転に入る前に次の通り皆さんをご招待する事にしました。

7月29日(金)～31日(日) 2泊3日

長野県北安曇郡白馬村北
城14718「夢の山小屋・に
ほめの一步」(JR白馬駅
から北に5km)費用として
食費3,000円程度をお願い
します。交通費も各自ご負
担。ベッドが25人分しかあ
りませんので、ご連絡はお
早めに。

詳細のお問い合わせは、
浦和市白幡3-1-9-2-613、
電話048-863-8461の私にど
うぞ。

(押川 歳子)

ツバメ 観察記録

カンムリカイツブリ ◇4月4日、戸田市道満荒川第一調節池で夏羽1羽(高橋達也)。
ゴイサギ ◇4月10日、戸田市道満荒川第一調節池で58羽(陶山和良)。
アオサギ ◇3月6日、戸田市道満荒川第一調節池で34羽(古澤紀)。
オシドリ ◇3月12日、春日部市の安之堀川で♀1羽。2~3週間前から滞在中だったが13日から姿見られず(石川敏男)。
ヨシガモ ◇3月4日、川越市の伊佐沼で♂1羽(中司隆由)。◇3月5日、北川辺町の渡良瀬遊水池で♂8羽♀8羽(古澤紀)。◇3月13日、深谷市の利根川上武大橋下流で♂2羽♀2羽(井上幹男)。
キンクロハジロ ◇3月13日、本庄市の利根川阪東大橋下流で♂2羽♀5羽(井上幹男)。
スズガモ ◇3月24日午前7時、本庄市の利根川阪東大橋下流で♂3羽♀2羽。ホシハジロと一緒に風を避け岸边近くで遊泳していた(町田好一郎)。
オオタカ ◇4月10日、入間市の入間川豊水橋上流、笹井堰で1羽。3羽のカラスにモビングされる(古澤紀)。
ツミ ◇4月14日、浦和市白幡沼で♂1羽(海老原美夫)。
チョウゲンボウ ◇3月24日午後4時30分、本庄市の利根川阪東大橋下流で♂♀各1羽ペアリングを確認する(町田好一郎)。
コチドリ ◇3月20日、深谷市の利根川上武大橋下流で3羽(井上幹男)。
ムナグロ ◇4月6日、幸手市木立のB&Gグラウンドで3羽(田畑孝)。◇4月13日、浦和市秋ヶ瀬のA地区で29羽(細井要)。
ケリ ◇3月12日、春日部市の谷原中学校西側の田んぼで2羽(石川敏男)。
タゲリ ◇2月13日、志木市の柳瀬川、市役所付近で約50羽(山口芳邦)。
ツルシギ ◇3月5日、北川辺町の渡良瀬遊水池で冬羽1羽(古澤紀)。◇3月20日、川越市の伊佐沼で1羽(鈴木博志)。
タシギ ◇3月11日、深谷市の利根川上武大

橋下流で1羽(井上幹男)。
セグロカモメ ◇3月21日、深谷市の利根川上武大橋下流で2羽(井上幹男)。
シラコバト ◇3月28日現在JR新三郷駅での営巣状況。上りホーム、抱卵中の巣1、巣のあと2。下りホーム、抱卵中の巣1、巣のあと6。まったくシラコバトは、都市鳥です。巣は、すべて改札口に近い所でした(山部直喜)。
ヒメアマツバメ ◇4月10日、入間市の入間川豊水橋上流、笹井堰で30~40羽(古澤紀)。
カワセミ ◇2月11日、志木市の柳瀬川高橋上流で1羽(山口好邦)。
アオゲラ ◇4月2日、坂戸市城山で♂1羽(増尾隆・節子)。◇4月10日、入間市の入間川豊水橋上流、笹井堰で♂1羽(古澤紀)。
ツバメ(初認) ◇3月13日、深谷市の利根川上武大橋下流で1羽(井上幹男)。◇3月19日、富士見市東大久保地区で2羽(海老原美夫)。◇3月24日、本庄市の利根川阪東大橋下流で2羽(町田好一郎)。◇3月27日、入間市の入間川豊水橋上流、笹井堰で1羽(古澤紀)。◇4月1日、戸田市道満荒川第一調節池で1羽(高橋達也)。◇4月3日、毛呂山町長瀬で2羽(増尾隆・節子)。◇4月4日、浦和市上野田で1羽(藤原寛治)。◇4月7日、JR鴻巣駅付近で1羽(長島岩雄)。
イワツバメ(初認) ◇3月23日、浦和市の白幡沼で3羽(海老原美夫)。
ミソサザイ ◇3月16日、毛呂山町の宿谷の滝入り口付近で1羽。上流で1羽。上流の個体はさえずっていた(古澤紀)。◇3月27日、越生町龍ヶ谷川で1羽(増尾隆・節子)。◇4月6日、日高市の五常の滝で♂1羽。さえずりが滝壺にこだまする(古澤紀)。
ジョウビタキ ◇4月6日、日高市の五常の滝で♂1羽(古澤紀)。
トラツグミ ◇2月25日、秩父市の羊山公園で鳴き声を聞く(山岸昭治)。◇2月26日、熊谷市大麻生の野鳥の森で鳴き声を聞く(山岸昭治)。◇3月7日午前6時30分、鴻巣市の利根川導水路落口近くの屋敷林の中で1羽鳴いていた(長島岩雄)。◇4月1日、上尾市の中分水川神社付近の雑木林で初めか

なり大きな声で「ヒーヒー」と数回さえずり、だんだん遠くへ鳴きながら去って行った(立岩恒久)。

アカハラ ◇3月21日、浦和市の秋ヶ瀬公園で♂♀各1羽(山口芳邦)。◇4月10日、入間市の入間川豊水橋上流、笹井堰で♂1羽(古澤紀)。

シロハラ ◇4月2日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽(古澤紀)。

ツグミ ◇3月4日、本庄市の利根川阪東大橋下流で顔から頭部が白化した個体が1羽(井上幹男)。◇4月2日、秩父市の羊山公園で1羽がさえずる(山岸昭治)。◇4月6日、幸手市木立のB & G グラウンドで36羽(田畑孝)。

ウグイス(初鳴き) ◇2月20日、桶川市若宮の自宅付近でさえずりを聞く(立岩恒久)。◇3月1日、吹上町荊原でさえずりを聞く(栗原省二)。◇3月5日、北川辺町の渡良瀬遊水池でさえずりを聞く(古澤紀)。

エナガ ◇4月6日、日高市の五常の滝で20羽(古澤紀)。

ツリスガラ ◇3月5日、三郷市さつき平の貯水池で10羽以上。マンションが立ち並ぶ住宅地の中の小さな貯水池で、枯れたヨシの皮をはいで中の虫をついばんでいた(山部直喜)。◇4月1日、戸田市道満荒川第一調整池で♂1羽(高橋達也)。

ミヤマホオジロ ◇3月6日、秩父市の羊山公園で♂2羽(山岸昭治)。

アオジ ◇3月19日、深谷市の利根川上武大橋下流でさえずる(井上幹男)。◇4月2日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森でさえずる(古澤紀)。



(ツグミ♀ 立岩 恒久)

マヒワ ◇2月27日、三峰山で約50羽(山岸昭治)。

ベニヒワ ◇3月13日正午頃、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で♀1羽。その日の朝に見た人もいるという話を聞いたが、誰であるか分からない。ハンノキ林の地上で閉じた松かさのようなハンノキの実から種子をほじくりだして盛んに食べていた。複数の情報を総合すると、同月29日が終認らしい(海老原美夫)。

ベニマシコ ◇2月19日、秩父市の羊山公園で♂2羽♀1羽。この日以降見せず(山岸昭治)。◇3月5日、北川辺町の渡良瀬遊水池で♂2羽(古澤紀)。

ウソ ◇4月2日、秩父市の羊山公園で♂3羽♀3羽(山岸昭治)。

イカル ◇2月27日、三峰山で多数(山岸昭治)。◇4月2日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森でさえずる(古澤紀)。

カケス ◇4月6日、日高市の五常の滝で10羽(古澤紀)。

表紙の写真

ネイチャーフォトコンテスト 1993 入選作

タマシギ (タマシギ科)

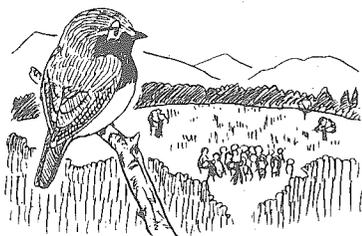
雨の休耕田をのぞいてみた。双眼鏡で草の1本1本をなめるように見ていく。

いた! 葉の間に大きな目。タマシギのメスだ。しばらくするとそろりそろりと動きだし、採餌したり、羽づくろいしたり…。

そのうち、ぴょんと跳んで、パッと両翼を広げる動作をくり返し始めた。そんな彼女の視線の先にオスがいた。「ぴょん、パッ」は、求愛のサインだったのだ。

野川一臣 (大宮市)

行事あんない



(渡辺 敦)

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月5日(日)

集合：午前8時30分 北本観察公園駐車場

交通：JR高崎線北本駅西口よりリーダーの指示に従ってタクシーに分乗して下さい。(午前8時15分ごろから)。

担当：岡安、榎本、内藤、吉原、関口、永野(安)、永野(京)、渡辺(光)

見どころ：アシの葉のささやき。ロックを奏でるイタズラ小僧のオオヨシキリ。カッコウが鳴く。バンはいま子育て中、要注意。メインゲストは当日発表。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月12日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乘車

担当：菱沼(一)、森本、関口、菱沼(洋) 斎藤、根岸(旧姓塚本)、中島(章)、小池、石井(博)、和田

見どころ：アシ原でさえずるオオヨシキリやセッカ、水面を滑るように飛ぶコアジサシ、じっと魚を待つササゴイ、大麻生の夏のスター達が勢揃い。いよいよ夏本番となります。

5月8日の100回記念大会は、皆様のご協力のおかげで盛大に開催できました。その上好天気にもめぐまれ感謝の気持ちがいっぱいです。今後ともよろしくお願い致します。

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：6月19日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口(集合後、バスで現地へ)または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

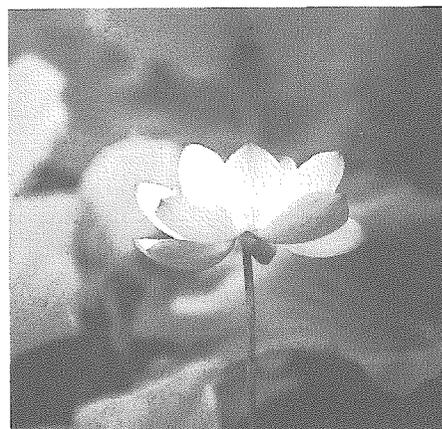
担当：楠見、福井、渡辺(周)、手塚、笠原、伊藤、田口、岡部、嶋田、倉林

見どころ：例年のように、カルガモの親子が一行縦隊になって芝川を泳いでいきます。青々とした水田がひろがり、見沼たんぼは梅雨の一時。畑の里芋の葉っぱに青蛙が昼寝をしています。自然の宝庫、見沼たんぼにいらっしゃい!

『しらこぼと』袋つめの会

とき：6月25日(土)午後1時~2時ごろ

会場：支部事務局 108号室

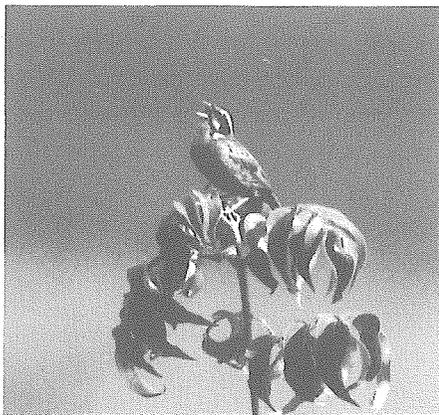
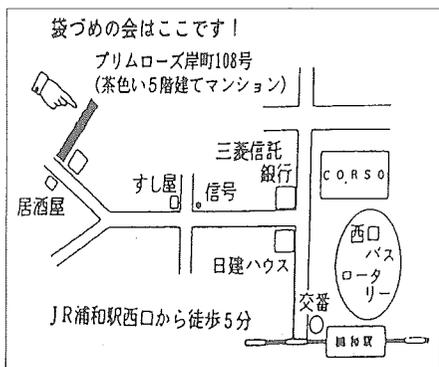


(古代蓮 町田好一郎)

案内：「雨に歩けば」という歌が流行った事が昔ありました。今でも明るいメロディは憶えています。でも梅雨はジメジメ・ジトジトで陰うつ。そんなとき『しらこぼと』の巣立ちに来てみれば。ピーチク・パーチクもできて気分転換になりますよ。♪お待ちしております♪

野鳥写真クラブ定例会

6月25日(土) 午後2時ごろ～5時
 会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ
 案内：野鳥撮影に興味を持つ方や、これから挑戦しようと思っている方を対象にしたカメラ&ビデオカメラ撮影入門講座を開催します。支部のベテランの面々がマンツーマンで指導致しますヨ。また皆さんが撮ったスライドやビデオも是非おひろめして下さい。見るだけ会員も大歓迎です。



(ホオジロ 海老原美夫)

上尾市 八枝神社探鳥会 (夕方)

期日：7月3日(日)
 集合：午後6時 上尾市平方八枝神社境内
 交通：JR高崎線上尾駅西口東武バス6番より17:30発(この1本のみ)、または大宮駅西口東武バス8番より17:18発、ともに平方行にて終点下車すぐそば
 解散：午後7時30分頃
 担当：立岩、阿久沢、丹
 見どころ：日没(19時06分頃)後よく活動するアオバズの親とチリリリリ…と餌をねだる赤ちゃんの声をききましょう。
 注意：蚊がいますので、虫除を持参下さい。



(バン 登坂 久雄)

行事案内のカット
 名古屋市 渡辺 敦

拝啓 奥武蔵の里山に三光鳥の艶やかな姿が舞う頃でしょうか。愛用の双眼鏡もウズウズとしていることかと存じます。『しらこぼと』の行事案内のカットが出来上がりましたので送付かたがたカットの解説をします。

高原で三鳴鳥の名高きオオルリの姿を見つけた探鳥会の一行、それを見つけたオオルリは「また、あんたたちの?よく飽きないなァ」といった顔。けれども、彼の姿は飽きのこない美男子なのですよね。そんなシーンを描いてみました。ご採用願えればと思っています。8月号用からは新バージョンのカットを描いてみようかとも思っております。またご使用頂けたら幸いです。

それでは、いつかお会いできることをたのしみにいたしております。(6年5月9日受付)

行事報告



2月6日(日) 北本市 石戸宿

参加: 49人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ
コガモ コジュケイ クイナ バン キジバト
カワセミ アオゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキ
レイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウ
ビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジ
ロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリ
ン カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハ
シボソガラス ハシブトガラス (33種) アオジ、
シメ、カシラダカなど冬鳥を観察しながら木道を
歩く。居並ぶ釣り人の近くにカワセミとカイツ
ブリが出現。ハイライトは北里の池のほとりのア
オゲラ。ベニマシコもワシ・タカも我々の前には姿
を現わしてくれなかった。数人でもオオジュリン
を見られたのがせめてもの救いです。(岡安征也)

2月11日(金、休) 上尾市 丸山公園

参加: 22人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ コサギ ホシハジロ キジ
タゲリ タシギ セグロカモメ キジバト カワ
セミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキ
レイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビ
タキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ
ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シ
メ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボ
ソガラス (32種) 斜面林では、カケスが数羽ジェ
ーजूとさわぎ、広い芝生では、草をついばむ
シメのくちばしの下の黒いよだれかけが全員でよ
く観察できた。池には5羽のホシハジロ、空には
セグロカモメがタカのように円を描いて舞上がり、
それぞれ当探鳥会では初認された。南口駐車場南
側のアシ原が埋立てられ、オオヨシキリのさえず
る場所がまた1つ消えた。残念なことです。

(立岩恒久)

2月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 16人 天気: 晴

ハイタカ イカルチドリ キジバト コゲラ ヒ

バリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ シロハラ
ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオ
ジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ
スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハ
シブトガラス (23種) 前日に降った雪で探鳥会が
できるか心配であったが、天気もまずまず。ゴル
フ場わきの草原では、カワラヒワの大群とスズメ、
ホオジロ、カシラダカと一緒にになって餌さがしに
夢中で、近寄ってもあまり逃げようとしない。畑
では、ムクドリ、スズメ、ツグミの群れ。その中
に、イカルチドリがぼつんと居たのが印象的。そ
れらをねらっているのか、上空をハイタカが飛ぶ。
早朝に雪の上にまいておいた餌にはアオジが集ま
っていた。(菱沼一充)

2月13日(日) 所沢市 狭山湖

参加: 21人 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツ
ブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ コガ
モ ヨシガモ オカヨシガモ ハシビロガモ ト
ビ オオタカ ノスリ キジバト アオゲラ ア
カゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セ
グロセキレイ ビンズイ タヒバリ ヒヨドリ
モズ ルリビタキ シロハラ ツグミ シジュウ
カラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ
カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボ
ソガラス ハシブトガラス (39種) 前日が大雪で今
日は20cmの積雪の中だが、林の鳥がたくさん見ら
れた。大きなドラミングの音の方向を探すと、ア
カゲラを発見。しかし、音源は別のアオゲラだっ
た。湖ではカンムリカイツブリやコガモ、マガモ
のディスプレイを見ていると、オオタカが急降下
でカモの群れをおそい、これに失敗するとドバト
をねらったが、これにも失敗するという大スペク
タクルが眼前にくりひろげられた。(三田長久)

2月19日(土) 東京都 高尾山

参加: 15人 天気: 晴

カルガモ トビ タカ s.p. コジュケイ キジバ

ト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ミソサザイ ルリビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 1週間前の大雪がまだ道端に残る中、自然研究路の1号路を進む。今年は珍しくカラの混群の中にヒガラが混ざり、間近に観察できた。沢沿いでは、ミソサザイも姿を見せ、雪でどこかに行ったかなと心配していたルリビタキもしっかり姿を見せた。参加者15名で山道の探鳥会としては丁度いい人数で、天候にも恵まれ、まずまずの探鳥会となった。(登坂久雄)

2月20日(日) 浦和市 三室地区

参加:47人 天気:晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ キンクロハジロ ホシハジロ コジュケイ タゲリ ハマシギ タカブシギ イソシギ タシギ セグロカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ オオジュリン アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) すばらしい早春の朝。鳥も春を感じているようなので、芝川を下流へと足をのびしました。鳥たちも多く出現。代用水の上の公園から春霞の見沼のたんぼが一望され、葦原でオオジュリンが冬羽の姿をよく見せてくれました。

(楠見邦博)

2月26日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア:17人

赤塚義正、荒木恒夫、有山智樹、石井幸男、海老原教子、海老原美夫、岡安恵司、後藤ゆかり、小林孝太郎、桜庭 勇、志賀 敢、篠原東彦、墨江光子、藤野富代、森下 強、谷津弘子、吉安一彦

2月27日(日) 行田市 さきたま古墳公園

参加:96人 天気:晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ オナガガモ ホシハジロ チョウゲンボウ キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ

ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 大空が澄み渡り、富士山や両神山もハッキリ見える好天気スタート。チョウゲンボウが輝く翼を見せ、ウグイスの美声にも感動。墳丘の陽だまりに休むトモエガモは、全員がじっくり観察できた。その上、冷えた体に恒例となった関口さんのトン汁サービス。楽しいラッキーな探鳥会でした。(内藤義雄)

2月27日(日) 越谷市 古利根川

参加:27人 天気:快晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ イカルチドリ イソシギ ユリカモメ セグロカモメ シラコバト キジバト ハクセキレイ ヒヨドリ ツグミ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス (22種) 嬉しい誤算二つ。その一つ、参加人数の多さ。半分以上の方が初心者ということで、嬉しさ倍増。二つ目は、数年ぶりのヨシガモの再来。また、当地での基本8種を全員が確認。穏やかな天候も手伝って、なかなか充実した探鳥会でした。(山部直喜)

3月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加:42人 天気:曇後晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ チョウゲンボウ コジュケイ キジ イカルチドリ イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 風が強く、あいにくの曇り空だったが、コハクチョウに別れの挨拶に行く。押切橋を過ぎるころから、日が差してきて暖かくなってきた。土手では、オオイヌノフグリが小さな花をつけ、ヒバリは空高く囀っており、すっかり春の様相。途中の林でコゲラとビンズイを見つけた。ビンズイは梢でじっとしており、久し振りにゆっくり見られた。お目当てのコハクチョウは約70羽で、先陣はもう旅立ったようだった。(菱沼一充)

連絡 中長

●総会のお知らせ

日時 平成6年6月26日(日)
午後1時受付開始
午後1時30分～2時30分 記念講演
(講師・テーマ未定)
午後2時30分～4時30分 総会

場所 浦和市立コミュニティーセンター
3階 視聴覚室
(浦和市岸町5-1/浦和駅西口から
県庁通りを県庁方向に進み、旧中仙道
を左折して約600m、調神社を過ぎて右
側、徒歩約10分)

議題 平成5年度事業報告・決算報告
平成6年度事業計画案・予算案
平成6年度役員選出

懇親会 総会終了後、支部事務局 108号室に
場所を移して、午後5時ころから恒例
懇親会。会費 1,000円位。総会には出
られないけど、懇親会にだけ出たいと
いう方は、割増会費かも。

参加資格 支部会員に限ります。支部会員で
あれば、どなたでも参加できます。ど
うぞお出かけください。

●全国野鳥密猟問題シンポジウム

4月16日(土)～17日(日)、愛知県瀬戸
市の愛知県労働者研修センターで開催され、
当支部を代表して福井恒人幹事(埼玉県鳥獣
保護員)が出席。全国から136名が集まり、
今後の具体的な活動方針などについて議論を
交わしました。

●支部事業部長が交代

従来支部事業部長を担当していた福井恒人
幹事が、鳥獣保護員としての活動などが更に
忙しくなり、そちらに専念するために退任。
今まで実質的に事業部活動を支えてきた草間
和子幹事が部長に就任しました。

●ご寄付と支部賛助会費

あき銀ユニオンクレジット探鳥会リーダー

たち(榎本秀和・海老原美夫・岡安征也・内
藤義雄・福井恒人・町田好一郎・吉原俊雄)
54,000円、海老原美夫10,000円、大武昭雄賛
助会費 8,000円、川口由美子 2,000円、楠見
邦博賛助会費 8,000円と寄付金 4,000円、諸
徳寺四郎 1,000円、田沼利彦 500円、銚子港
探鳥会参加者17,167円、新田美代子 1,500
円、馬場惺子30,000円、森本國夫賛助会費
8,000円。ありがとうございました。(50音
順、敬称略)

●6月の土曜日当番(2時～6時)

4日 楠見邦博 中島康夫(普及部会議)
11日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
18日 内藤義雄 角田真喜子(校正の日)
25日 袋づめの会(1時から)

●会員数は

5月9日現在 2,432人です

活動報告

4月2日 普及部会議。
4月6日 『野鳥見て歩き』幹書房で打ち合
わせ(海老原)。
4月16日 編集会議。
4月17日 役員会議(司会・登坂久雄、バー
ドウィークイベント・大麻生 100回記念探
鳥会の準備・その他)。『見て歩き』第4
回編集会議。
4月23日 5月号校正作業(海老原美夫、大
武昭雄、工藤洋三、桜庭勇、高松格、渡辺
喜八郎)。

編集後記

何気なくおとずれた事務局は、編集会議の
まっ最中。実は私も編集部員だった。ほとん
ど忘れかけていた作業を、聞きながら何とか
進めた。事務局に来れば、忘れていた事をい
ろいろ思い出せるのだ。(田口)
昨夜帰宅途中声を聞いたアオバズクを探し
ていたら、ツミを見つけてしまった。編集の
日には幸運があるのだよ、田口君。(内藤)

『しらこぼと』1994年6月号(第122号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町 107号 郵便振替 東京9-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)